



浄土宗 尾州御寺 大森寺

尾張徳川家菩提所
二代藩主 徳川光友公御生母 歿喜院殿（お尉の方）御廟所



こうきゅうざん かんぎいん 興舊山 歿喜院 大森寺 (だいしんじ)

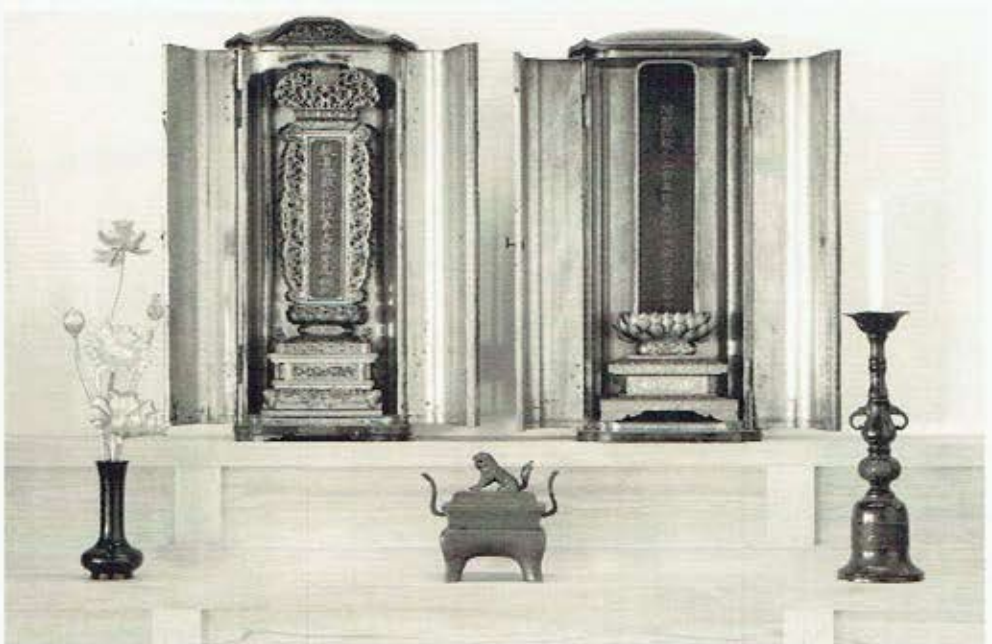
〒463-0027

愛知県名古屋市守山区弁天が丘 809

TEL 052-798-0289

FAX 052-798-0155

- ・電車 名鉄瀬戸線「大森・金城学院前」駅 徒歩1分
- ・車 名古屋高速 第二環状線 外回り「大森インター」4分
- ・車 名古屋高速 第二環状線 内回り「引山インター」7分



右写真 徳川光友公

(瑞龍院殿 公御位牌と)

御生母お尉の方(歓喜院殿)

御位牌(※乾の方とも号す)



右写真

旧 東海中学校

校舎・現 奥院

(明照殿)内部

上写真 本堂

『大殿』

大森寺の沿革【創建 江戸時代初期】

尾張徳川家二代藩主 徳川光友公は、寛永十四年（一六三七）御生母（お尉の方）が逝去されると、菩提を弔うため、將軍家菩提寺江戸小石川の伝通院内に伽藍を築かれ、歓喜院と号されました。

寛文元年（一六六一）六月、伝通院より、歓喜院様のご生誕の地 当山は尾張国に三つある、正式な尾張徳川家菩提寺の一つとして、また、尾張国五本山（尾州御寺※）の一つとして、徳川光友公から計三百石の大森寺領地と、境内地 約三万九千坪を拝受し、歓喜院殿御廟（御墓）・本堂大殿・常念佛堂・善光寺堂・弁天堂・熊野社・稲荷社・境内御殿・大森寺山御殿・総門・山門・中門・鐘楼堂・宝蔵・庫裏・学寮・蔵・庭園等を配す大伽藍が造営され、境内は弁天池から水路で引いた水で満たされた堀が配され、北に大森寺山を有し、南は矢田川堤の総門から瀬戸街道を跨ぎ境内山門まで、両脇に白壁塀と松を配した大森寺参道が整備されるなど、興隆を極めました。

尾張徳川家御一門の寺として創建された歴史・御役目から、特に瑞龍院殿公と歓喜院殿様の御位牌をお祠りし、創建から現在まで、およそ三百五十年間にわたる追恩追善のご供養がなされております。

※尾州御寺(みでら)とは、尾張国の徳川家・尾張徳川家寺院の呼称

【明治時代から現在 未来へ】

明治八年（一八七五）二月九日夜半の火災により、本堂・常念佛堂・境内御殿・大森寺山御殿・蔵・庫裏・学寮等、烏有に帰しましたが、幸いにも歓喜院殿御廟（御墓）・山門・中門・鐘楼堂・蔵・大門（松並木）・善光寺堂（善光寺如来）・弁天堂（弁才天）・御本尊阿弥陀如来二体・瑞龍院殿公と歓喜院殿様の御位牌・光友公御真筆大森寺号額・光友公御真筆歓喜院号額・陳元賛作陶製仏像などの宝物、仏具等は焼失を逃れました。

その後、尾張藩第十四代藩主・尾張徳川家第十七代当主徳川慶勝公により復興がなされ、尾張徳川家総菩提寺 名古屋市東区建中寺の塔頭正信院本堂（旧 東海学園 東海中学校 校舎）(初代校長 当山 大森寺 第二十世 住職 武田芳淳 先生)を 仮本堂（現 大森寺奥院 明照殿）として移築されました。

平成二十七年十一月八日、大森寺開創三百五十年を迎え、明治八年の本堂焼失より約百四十年を経て、江戸時代創建の位置・配置による本堂再建・境内復興を果たし、尾張徳川家二十二代御当主 徳川義崇公 御臨席のもと、落慶法要を厳修。

往年の格式を復興し、現在、開かれた寺院を目指し、浄土宗総本山知恩院直末寺としての寺院活動と、徳川美術館様や名古屋市等のご協力・連携のもと歴史・文化の拡充に努めております。